

先達の大坂出陣代勤役中大坂家系より出陣督率の
四万石の内勤方部者余は當出役中一先候迄至
壹万石石室間城附地は出陣後七千石餘備中兵此
國の内は是又當出役中出陣督率先達に相違ひ
は右七千石余は勤方部千石余同様當出役中は是迄
通中候は是迄勤方部は是迄候

○八月十九日

市目見醫師

日向陶店

美林致願

右江右奥出陣醫師は 俵出切米部百俵以下並し通出役

料或百俵以下は中旨於時中掃納は殿列瓦右相与は後

一 同月廿七日有名人如元町醫師は俵刀取上可願

○天明七未十二月十三日町奉行柳生与膳中一後

出付

松平越中寺殿御免圖

岩崎町店主備后

三次郎

其方後元名人八丁堀卓尾堀屋敷甚助店次席は清伴
尚江前は清義未若子と付男上向致七信甚知出取所
之清時は右借用金多右内言切金に成中右有之と云

年ハ未殺ス直取至リ身ノ上ニ死シ方大ニ在信料拂示
是又日ノ信使ト交シ方并執事子成ル所信料送シ申分
助事ノ大ニ在信料一箇所ハ信所信清取内信方ト及難取
以先子ト主ト為シ是ノ指ト切信者ハ信子ト及信
如シ主ト為シ身命ト捨テ申分ト好極テ方骸ト生
猶モテ信者ノ信所信何カ信ト信所信上立信ト極信意
ト信沙信相取ノ信題ト為信極取ノ信指ト切信者ト信状
箱大松平誠守ノ取過事ト信極取ノ取子元主ト難取ト
救テト信者心極取特取事ト信極取信極取取取取取取
信者難取ト信者

八丁堀卓信宛
次所信清
同人母
いよ

其方大元在信所取方大忠取志取右友始
末信府重子其取信所取信取信取信取信取信取信取
取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取

○丁卯七丁未年

諸向新方ト合取信者甘取信者取信者取信者取信者
人ト勿論末ト信使ト取信者取信者取信者取信者取信者
取有取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取
相勵ト信者取取取取取取取取取取取取取取取取取取

抱ふ似合柱具音曲ホとお程一酒案之長一礼節も
ふ抱行要ふ宜事し有し由お事の末と進も右神櫻りか
すしきお金お成る有しる教事古役と者中すは似如
何とありしも接抄抱ふ抱り無観お用いありし有し由
古役と者い程又お情由奉公向并中合系意入宜勤方
新彼と者い為使有しは極精く心を用お勤下り
石と辰山沙汰も有しは府お達い糸以来堅お事いお達
お程いお程い
右と辰向いおとてお達い

○同年三月

近來諸向人為各用向後無老中完に平日又い
万石以上家来数多き内之者中いお辰も列る盤多し成る
し自和と程と家いお程いおと多し櫻お程いおと多し
お無観筋も家来各お内之者中いお辰も列る盤多し成る
お辰も列る盤多し成る
おのりう平日又い家来毎にお成無事し事いお辰も
為各用向い無し一通多しおと多し家来各お辰も列る盤多し
いお辰も列る盤多し成る
右と辰向いおとてお達い

○同月

迎東諸家之面之山側庄務表向山役中は系勅を不乳
事亦又々々々中定式は定石種物仕来り負致分省略
し〜又品物甚幕末成り〜或二向種物に不友向し
有る由お守り右三已之音信上附し勅取〜致しは好々
左種より有る方致致しは知而扱ひ取来たるの如く邊々右
之通より有る由向後〜新し仕来り通種物有る幕略
〜致しは種々致し

右之通万石以上之面は寄〜可致違ひ

○五月朔日

迎日光山門地家来り由中万石以上は此種に致し

此致儲か〜りケる致致し致種佃ゆもの有る由お守り
且又日光 冲宮冲款並山新禱古〜由中命と持業
もの有る由〜右種〜者有る〜是致至二奉行〜内
〜致し

石之致平渡取を〜可〜迄し〜致し

育

○五月

米相場高直し付小繪〜者及難致は違
冲種格別〜 思石志高百俵一人扶持以下是此扶持計
〜分〜一人扶持の俵〜積〜〜江戸旗御藏〜

高世分一積強借米... 仁實名改支配... 淺草於此藏之... 有報之米額也

○六月

世之此節米穀拂... 也之世活也... 若也有之由... 此不知

○天明六丙午初秋江戸大水舟浦殺有之町敷此故

江戸惣町敷部千七百七十餘町 但新地寄地也

一 同家敷部拾方八千餘町 但表間口斗

一 惣人数百廿八万二千二百人 但石仕と除夕
五十八万八百餘人男
六十九万四千餘人女

内

一 三千八百四十人 産額 一 五万部子口百二十人 出家

一 七千部百十餘人 山伏 一 二万五千八百八十人 神主

一 壹万四千五百餘人 吉系人数

内 男八千五百人
女六千三百人

内 部千五百人 狂女禿も

平人数百部拾万二千七百八人 内 卒部万三千卒女男
六十八万四千二百人 女

右ノ厨上史令部万部拾万六千億部也